



# だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば  
代表 桑波田 和子  
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
(一財)千葉県環境財団業務部  
環境活動支援課気付  
電話 043-246-2180  
FAX 043-246-6969

## 平成26年度環境講座実施業務をふりかえり

県の主催する環境講座を企画提案し、プロポーザルで当会が受託し、講座を実施してきました。講座開催期間は、平成26年7月26日の船橋三番瀬海浜公園で開催した「江戸前アサリわくわく調査」をスタートに、平成27年1月24日「ファシリテーター養成講座5回」を最後の、約半年間でした。

講座構成は、①ファシリテーター養成講座を5回、②こども環境かいぎ1回、③環境講座2014を13回実施しました。受講者数は、子ども、大学生、成人と合わせて、延べ470名でした。会場は、野田市、浦安市、柏市、成田市、山武市、茂原市、いすみ市、南房総市、市原市、千葉市、船橋市と、ほぼ千葉県を一周しました。おかげさまで、地域の受講生との出会い、資源の活用などを知り千葉県の豊かさも学びました。アンケートにも「地域の環境への取り組みなど知った」とありました。実施した講座は、当会会報「だより」に報告し、受講者、市町村、市民活動センター、当会会員に配布しました。

今、分厚い報告書を見ていると、それぞれの講座の様子が浮かびます。講師との打ち合わせ、会場、バスなどの行程確認、雨天対応、募集の広報など、当会ではできる限りの体制で臨みました。また、講師のアドバイスやスタッフ、受講生のご協力をいただき、怪我もなく、安全に終了でき、感謝しています。

応募では、参加申し込み者が定員の2倍近くとなり、抽選した講座もありました。

講座では「気づきから行動する人」をモットーに、①多くの感動と気づき②体験することで身に着く知識③連続開催することで、受講生と講師、スタッフの一体感などと、重点を置いて実施したつもりでも、まだまだ力不足と反省しています。

受託団体としては、講座終了後の受講生が地域や仲間たちと、環境活動の一役を担っていただきたいと願っています。また、当会としても可能な限り支援して行きたいと思います。

(文責：桑波田 和子)

## 「環境ファシリテーター養成講座」を受講して

中島 文秀

私は、製造工場で設備関係の仕事をしております。仕事柄環境関係にも携わっており、今回受講したきっかけは、千葉県からの案内の中にチラシが入っており、環境関係の講習会とのことで興味もあり受講しようと思いました。

ファシリテーターとは、催し物や会議等において円滑に進むよう促進する人のことで、実際に受講してみると非常に奥深く感じました。

初めて講習会場に訪れたときは、周りの方の年齢、職業もバラバラで不安でしたが、会場の雰囲気非常に和気あいあいとして皆さん楽しんで受講しており、今までの講習会では経験をしたことのない心地良さを感じました。

講師の鈴木まり子先生や小松敬先生の話も分かりやすく面白く説明していただき、非常に楽しく

アットホームな雰囲気を受講することができました。

また、インターンとして他講座にファシリテーターとして参加し、主催者の側で導き促進する経験もして、開催する側の苦労も知りました。

受講してみて感じたことは、人の話を傾聴する、場の雰囲気を良くするといった手法やコツといったものは、仕事や家族、地域での活動等に幅広く応用ができて、最近不足していると言われていたコミュニケーションを良くすることには欠かせないと思います。

最後に、このような貴重な経験をさせていただきました鈴木先生や小松先生、スタッフの方々に感謝いたします。ありがとうございました。

## 平成27年度環境パートナーシップちば総会開催のご案内

三寒四温と温度変化が大きいです。コブシの花が咲き始めました。会員の皆さま方には、お元気でご活躍のことと思います。

当会もおかげさまで、26年度をまとめ27年度への歩みを進める時期となりました。そこで、以下の日程で平成27年度総会を開催します。是非多くの会員の方のご参加をお待ちしています。

平成26年度の主な活動としては、「エコメッセ in ちばの事務局」、「平成26年度環境講実施業務受託事業」、「印旛沼流域環境フェア、ナガエツルノゲイトウに関する連携活動」が大きな取り組みとして挙げられます。

これらの活動を通して、県民の方の環境に関する意識やニーズ、また多くの主体と協働の取り組みを推進していく必要を強く感じました。それには会員の皆さまのお力添えが重要です。皆さまのご意見をいただきニーズを知り、具体的な活動を展開していきたいと思っております。

第Ⅰ部は総会を開催し、総会後の第Ⅱ部は、エコサロンとして（株）飯沼本家の酒蔵見学と筍掘り体験を開催します。また、同地区で里山保全活動を展開している、酒々井里山フォーラムのフィールド見学も行います。

酒々井町にあって300年有余年の歴史を持つ銘酒「甲子正宗」の蔵元飯沼本家を訪れ、酒造りと団体・地域のつながりをお聞きします。また、筍掘り体験などで春の里山を満喫してください。

記

日時：平成27年4月25日(土)  
場所：(株)飯沼本家 明治蔵(酒々井町馬橋106)  
<http://www.iinumahonke.co.jp/>  
JR南酒々井駅より500m、徒歩10分  
電車案内：総武本線銚子行き  
千葉駅発(9:16)→南酒々井駅着(9:39)

参加費：1,000円予約制

※第Ⅱ部参加者(昼食+筍)

第Ⅰ部 総会 10:00~11:00

☆平成26年度事業・会計・会計監査報告

☆平成27年度役員改選・新役員紹介

☆平成27年度事業計画(案)・予算(案)

第Ⅱ部 エコサロン 11:00~15:00

(酒蔵見学・昼食・筍掘り及び里山活動地見学)

お問い合わせ：090-8116-4633(環パちば携帯)

※ 会員の方にはすでに往復はがきでご案内しておりますので、出欠に関わらずご返信ください。



## 「平成26年度 船橋 市民活動推進イベント」参加報告

毎年開催される船橋市の市民団体を応援するイベント、サブタイトル「ようこそ 市民活動ふれあい広場へ」が、船橋市の市民活動サポートセンター(フェイスビル5F)の会場で平成27年1月31日(土)11:00~17:00に開催されました。環境パートナーシップちばは、「エコメッセ実行委員会」として参加しました。

このイベントの出展団体は市内44団体で分野別には「環境保全」が8団体、「学術・文化・芸術・スポーツの振興」と「保健・医療・福祉の増進」がそれぞれ6団体、「社会教育の推進」と「まちづくりの推進」がそれぞれ4団体、その他16団体でした。来場者は事務局発表で約400人でした。

団体紹介は、山田多恵子氏が環境保全活動を活発にするための各団体との交流会実績報告を、写

真を交えて紹介した後、詳しくはブースにて説明する旨を伝えました。

ブースはパネル展示形式で、参考としてチラシを机に並べ、横山清美氏、山田多恵子氏が前半と後半を分担し、来場者に資料を渡しながらか活動の説明と来年度の活動紹介をし、団体関係者に対しては交流会参加を呼びかけました。主に交流した団体は八木が谷北市民の森(王子の森)を育む会、ノムエコ、フィールドミュージアム・三番瀬の会、エコマインドの会、日本野鳥の会千葉県、環境カウンセラー千葉県協議会、アースドクターふなばしでした。

会場内の他団体のブースを見て回るためには、常時2名の参加が必要と思われました。

(文責 斎藤清)



## 第17回千葉県環境教育研究会発表会報告

ELCoの会 横山 清美

2015年2月22日(日)千葉大学けやき会館にて掲題の発表会においてELCoの会が実施している「ESD環境教育モデルプログラム実証事業」の啓発活動をさせていただきましたのでご報告いたします。

ELCoの会からは、市野敬介代表から「ELCoの会が取り組む持続可能な地域づくりを担う人材育成事業について」、広田由紀江氏から「浦安市立入船南小学校におけるESD環境教育モデルプログラムの実践について」、長南小学校古内忠広氏から「ほんとうにきれい？長南の水から考える私たちの未来」という流れで発表させていただきました。

午前中は、千葉県環境研究センターの小川かほる氏から講演「参加体験型の学び方から、問題解決を通じた学習を目指して～多くの人を巻き込んだ四半世紀」がありました。本年3月末の千葉県退職に当たり、千葉県水道局から水質保全研究所、水質保全課、千葉県環境財団、中央博物館、環境研究センターと仕事の取り組みの中で環境教育にはまった四半世紀を振り返り、どうつながって参

加体験型環境教育から問題解決を通じた学習のプロセスを話されました。お話から中央博物館での企画展「ワクワクたいけん2005旅する地球の水」での様々な人とのつながりに、氏も大きな影響を受けたことがうかがえました。

午後からは、発表「環境教育支援団体指定を受けて、親子ものづくり教室、樹木医と環境教育、都市部の学校での天体観測会の実施について、小学校6年生理科『生物と地球環境』について、地域でできる環境教育の地道な実践」があり、ELCoの会の発表の後、参加者全員が小人数グループでの話し合い「持続可能な地域づくりを担う人材育成と環境教育について」がありましたが、その中で「先生が教えたがるよりも一緒に考えるようになった」というのが印象に残る一日でした。



## 「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」の報告

ELCoの会 広田 由紀江

環境省では、小中学生を対象にしたESD環境教育プログラムを2013年に20プログラム、2014年は19プログラム作成、プログラムガイドを発行し、その実証を各県の団体に委託している。千葉県内では、2013年に引き続きELCoの会が受託し、2つの小学校で実施しました。

### (1) 浦安市立入船南小学校の実践

浦安市立入船南小学校4年生(2クラス/75人)を対象に、プログラムガイドから「これからのエネルギー生活を考えよう」を選択、2014年11月4日の導入から11月29日の発表までの間に「環境とわたしたちのつながり」というテーマで11時間の授業を行いました。身近な環境へ興味・関心を持ち、環境が互いにつながり影響しあっていることを感じてもらえるように、水やごみ問題、エネルギー問題といった1学期に学んだことにつなげた体験学習としました。エネルギーは、ストップ地球温暖化千葉推進会議の内野氏、相馬氏の協力で行うことができました。学習の成果や取り組みは、11月29日の「入船南小まつり」で他の学年や地域の人たちに対して「今日からあなたも環境人(エコんちゅ)だ!」と題し、環境

の大切さを劇と参加者の体験を通じて発表、参加者の共感を得ることができました。

### (2) 長南町立長南小学校の実践

長南町立長南小学校5年生(1クラス/11人)を対象にプログラムガイドより「『5つのものさし』で、地域の川や生き物を守っていく!」をベースに「ほんとうにきれい?長南の水から考える私たちの未来」と題した実践授業を行いました。5年生の社会では、京都の鴨川での環境保全活動を学ぶ単元があります。身近な長南川をテーマに行うことで、遠くの出来事ではなく地域資源を利用した学習となります。私が参加した1月23日は、川の水調べ学習として、学校の目の前に流れる長南川の上流・中流・下流に分かれ採水、水質調査を行う学習を3時間かけてじっくり行うものですが、最終的には町役場の職員が将来の長南川の環境がよりよくなるよう提案を行いました。長南小学校は、2年後に統合の予定であることから故郷を担う人材になってほしいという先生方の願いや郷土愛を高めることにつながったと担任の古内先生の感想を伺うことができました。

## 東日本大震災が生態系に及ぼした影響

2015年2月22日に行われた千葉県生物学会で、東京情報大学の原慶太郎先生の「東北地方太平洋沖地震津波が海岸エコトーンに与えた影響とその再生」という講演をお聴きしました。原先生は2011年3月の東日本大震災における大津波が東北地方の太平洋沿岸一帯の生態系に及ぼした影響（被害と回復状況）について、地震直後から在仙の仲間の方々とずっと調査していらっしやり、その途中経過をたくさんの写真や調査データとともに話してくださいました。

- ・この大津波は生態学的には、数百～千年という時間スケールで生じた低頻度・大規模攪乱と位置づけられる。

- ・津波という物理的な影響に加え、海水（塩分）の化学的な影響も大きかった。

- ・発生したのが3月で、この地域では植物の芽吹きなどの活動の始まる前だったので、津波の影響が少なかった植物もある。

- ・三陸のリアス海岸と仙台平野の砂浜海岸域では影響の様相が異なった。

\*生態系の自律的再生と並行して人間による復旧工事が行われており、せっかく甦った生きものが防潮堤や防災林などの復旧工事によって埋められ

てしまっている、という現実がある。一刻も早くという復旧工事は、アセスメント抜きで、ただ機械的に以前と同じもの、以前よりも頑丈なものを作っていて、生態系への配慮に欠けるものが多い。  
\*これまでの環境問題は「利便性と公益」という観点から論じられることが多かったが、今回の大震災の場合は、「開発行為と環境質」「開発行為と経済」、さらに「開発行為と安全」という観点から考えなければならない。これには地元の人たち（さまざまな立場がある）の意見を十分に活かして、考える必要がある。

大津波によって仙台平野の水田の一部は土地の沈降や津波の浸水によって塩性湿地に戻った。すると、ミズアオイやリュウノヒゲモなどの植物などが出現したという。この現象を生態系の再生と喜ぶか、水田が使いなくなったという被害とみるか・・・。（文責 小倉久子）

当日配布された資料：原慶太郎・樋口広芳「東日本大震災が生態系に及ぼした影響」地球環境 Vol.18 No.1 (2013)  
(<http://www.airies.or.jp/journal/18-1jpn.html> からダウンロードできます)

## 「鹿島川から印旛沼へ」報告記

印旛沼流域圏交流会 小倉 久子

2015年3月14日に、千葉市の都賀コミュニティセンターで、印旛沼環境団体連合会（印環連）主催による標記集いが開催され、46名のご参加を得て、有意義な意見交換をすることができました。

第1部では鹿島川流域で活動する4団体から①加賀清水公園の湧水の保全について（佐倉市環境保全課 大塚孝さん）、②残土埋め立てと飲料水（NPO法人四街道メダカの会 任海正衛さん）、③農地の保全と鹿島川上流域の水質に関すること（水土里ネット印旛沼 高橋修さん / 東京農工大 小美野聡子さん）、④里山の再生と豊かな生活（NPO法人ちば環境情報センター 小西由希子さん）という報告をいただきました。

第2部では第1部を基にした意見交換を行いました。①の浸透マス設置は、洪水対策としても有効であることの設置者からの補足や、他市の対応状況の紹介がありました。②の残土埋め

立ての問題は③の農業とも関連し（谷津田の耕作放棄地に投棄される、「残土」による嵩上げも場合によっては必要）、これから始まるであろうオリンピック関連の工事で不法投棄が増えないよう、印旛沼流域全体でも監視が必要という意見がありました。

鹿島川の流域はとても広く、印旛沼が直接見えないところも多いのですが、いろいろな課題を解決するために、いろいろな活動が行われていること、それらの課題は別々のものではなく、関連しあって最終的にはすべて印旛沼につながっていくことが、よく分かりました。

鹿島川流域をはじめ印旛沼の流域には、印旛沼からの距離、沼から受ける恩恵の見えやすさ、関わりの程度など、さまざまな人たちが暮らしています。その人たちを、印旛沼を良くするための具体的な活動にどのようにつないだらいのかと、改めて考えさせられたことでした。

## 印旛沼の歴史・文化を学ぼう（その四）

### ～佐久知穴(さくちあな)の雨乞い～

当シリーズその二で、小龍の化身である僧が雨乞いにより雨を降らせたことが天上の大龍を怒らせ、小龍が四つの身体に裂かれて地上に落下し、各落下場所に寺が建立されたという龍神伝説を記した。その三では、不思議な現象として佐久知穴の湧水について概略を書いたが、実はこの穴にも雨乞いの話が残っている。両伝説には共通点があり、それは、登場するキャラクターが小龍、僧及び大龍の三者である。これらから、昔の人の湧水や洪水の捉えかたを示唆しているようで興味深い。以下に佐久知穴の雨乞いの話を紹介する。

雨乞いの話の前に佐久知穴の具体的な状況を示すと、利根川図誌(第4巻8ページ)より、この穴は5、6個あるうちの最大のものであるが、穴の大きさは直径約6m、深さは不明、湧水により水面が60cm程盛り上がり、遠くからでもよく見えるとあり、湧水量の大きさがうかがわれる。また、この穴にはイナ(ぼらの若齢期)が沢山集まるので良好な漁場となっている。ぼらは海水魚だが、若齢期には汽水域を好み川に上り群れるので、利根川から上がってきて海水の特に薄い佐久知穴に集まったのであろう。

この穴が良好な漁場である状況として、ある旅人がこの穴にゆき魚を獲ろうとしたが、イナは俊

敏な魚から素人には無理だと止められ、しばらく待った後に漁師に大量のイナを貰ったことがイキイキと語られている。利根川図誌は、地誌に付けて面白い人物や話を登場させていることが、永く読まれ続けてきたゆえんであろう。

さて雨乞いに戻るが、印西のあたりにト童(ぼくどう)という17歳の禅宗の僧がいた。この僧は、粗末な飲み食い以外は何も求めないため、まわりから「愚直の者」と見られていた。

ある年の夏に、周辺地域が大干ばつとなり住民が困りはてていた。その時、ト童が「印旛沼の中にある佐久知穴に龍神が住んでいる。私と龍神は年来の友だから、龍神に雨乞いをすれば、たちまちのうちに雨が降るであろう。早く佐久知穴のところに祈禱台を作って欲しい」と言った。土地の者は半信半疑であったが、困りはてていたので祈禱台を作った。

ト童は、7日の断食をした後に祈りに入った。雨乞いを始めて7日後に待望の雨が降った。そして、ト童は、行方も知らせずにいずこかに去っていった。

さて、この佐久知穴の湧水は、現在はどうなっているのでしょうか。それは、紙面の都合で次回で書くことにする。(文責 牧内弘明)

## 講演会「侵略的外来種って、なに？」

千葉市地域環境保全自主活動事業「外来生物について正しく知ろう」の一環として2015年2月7日に千葉市ビジネス支援センター(きぼーる)において外来種についての講演会を開催しました。ちょうど昨年11月に環境省から「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(案)」が発表されたこともあって、リスト作成に関わってこられたお二人の専門家をお招きし、外来種に関する基本的なことから最新情報まで、幅広く興味深いお話をお聴きすることができました。

(一財)自然環境研究センターの戸田光彦氏からは、「身近な外来動物の意外な侵略性」について一般的なお話も含めてご講演いただきました。

外来種は非常に大きな問題であり、生物多様性国家戦略の「4つの危機」の3番目に「外来生物などによる生態系のかく乱」が挙げられていること、実際に、外来生物が今までいた生物を駆逐してしまった例をたくさん話されました。

外来種の3原則は「入れない 捨てない 拡げない」。外来種がはびこるのは外来生物が悪いのでは

なく、日本に持ち込んだり、環境中に捨ててしまう人間が悪いのだということ。カミツキガメではなくて、悪いのは持ち込んだ人間!

外来種はできるだけ早い段階での駆除が鉄則で、火事(ボヤのうちに消す!)の段階と対応させて説明していただいたのが、とても納得できました。

(独法)農業環境技術研究所の西田智子氏は「身近な外来植物とどうつきあっていくか?」という演題で、植物の視点から話してくださいました。

植物の場合、食糧生産や鑑賞のためにわざわざ日本に持ってきたものも多く、生態系への影響だけを理由に栽培や利用を制限すると、私たちの生活が不便になる場合もある。生物多様性の保全と日常生活のバランスを考えることが大切。

総合討論で出た、外来種を殺すのは可哀想という意見については、それを生かしておいたら、どれだけの生きものが滅びてしまうのかをよく考えなさい、という戸田講師のお答えに、外来種のことをもっと広く正確に知らせることの重要性を思いました。(文責 小倉久子)

## 平成26年度 環境教育・ESDカリキュラムデザイン研修 ～環境教育等に関する教職員・環境保全活動を担う者に向けた研修～ (環境省主催・文部科学省・アオイ環境(株)協力)

### ＊ Bコース (中学校・高校向き) 平成27年2月22日

昨年11月10日～12日に名古屋で開かれた「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」では、過去10年の取り組みを振り返り、今後10年の目標が設定された。ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)として、5つの優先分野(①政策的支援②機関包括的取組③教育者の育成④若者の参加の支援⑤地域コミュニティの参加の促進)に対し、ESDを教育の政策と持続可能な開発の政策へ統合し、国内及びサブナショナルレベルのフォーマル及びノンフォーマルな教育・学習の両方に必要な機関の能力を構築する等、政策を行動に移すために実質的な資源を配分、結集することを政府に求める「あいち・なごや宣言」がまとめられた。それを受けた今回の研修会は、ESDをいよいよ具現化するための、教育カリキュラムをデザインするというものだった。

私たちのグループがデザインしたのは、原子力発電所と核の最終処理場に挟まれたのどかな村の中学校で、エネルギーをテーマに3年間かけて取り組むという地域性の強いカリキュラムだった。それに対するアドバイザーの指摘が、住んでいる地域を二分するような対立する立場の人たちが混在

する場合、中途半端な取り組みやきれいごとではすまされないというものだった。さすがに鋭い指摘で一瞬たじろいだが、私たちは納得した。

まさに問題解決とは、対象となる地域が狭くなるほど、当事者同士の熾(ひ)烈な権利の主張と意見の戦いを舞台とするものであり、その重いテーマに取り組むには、熟慮する時間と総合知、そして丁寧な進行為最低限不可欠であると改めて思い知らされた。

ESDの教育プログラムで教師に必要な姿勢は「立つな、しゃべるな、整えるな」。子どもたちが本気で悩み考える機会を作る、という総括で研修は終わった。  
 (文責：中村明子)



出典:「ユネスコスクールと持続発展教育」  
 (日本ユネスコ国内委員会)

### ＊ Aコース (小学校向き) 平成27年2月8日

この研修は、「学校を中心とした環境教育・ESDの実践に興味のあるすべての人が対象」ではあるものの、教員を中心とした研修であるイメージが強かった。しかし当日の参加者は、教職員が半分、子どもを受け入れる施設の職員が多かったものの、私のように環境学習を行っている団体に所属している人、環境教育に興味のある学生や個人など多彩な人たちが集まっていた。

午前中はESD概論の講演、午後はESDカレンダーについて学んだあとに、実際にグループに分かれてESDカレンダー作りを行った。今回私が心を打たれたのは、午前中に講演された小澤紀美子先生の「ESDの視点を取り入れた環境教育の理念と概論」だった。これまで聞いた環境教育概論と違い、小澤先生の講義だけで一日のカリキュラムでもいいのではないかと思うほど、午前中の時間はあっという間だった。私はESDと環境教育は同じだと言いつつも、どこかで線引きしていたのかもしれない。理論武装のように、パズル

を組み立てるかのように、プログラムに理念をちりばめなければならないというESDの印象が、崩れ落ちるような感動があった。

午後に行ったWS(ワークショップ)では、メンバー6人のうち半分が学校の先生であり、その中で越谷市の小学校5年生で行っている「学校ビオトープを利用した環境教育」からESDカレンダーを作成した。

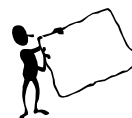
現在行っている学習を聞き取りながら、総合的な学習の時間と教科等に関連付けてESDカレンダーとしてまとめた。WSは楽しく、学校の先生はこんな風に学習プログラムを考えるのかと思うと、これもまたよい経験になった。

充実した研修ではあったが1つ残念だったのは、学んだことを分かち合うようなふりかえりの時間が皆無だったことだ。改めて、学ぶ側にとっても「ふりかえり・わかちあい」が大切であることを感じることができた。  
 (文責：広田由紀江)

## 県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 26 —

おききました！ この人・この団体

## 「グリーン購入ネットワーク（GNP）」

グリーン購入ネットワーク(GPN)の活動紹介  
グリーン購入ネットワーク事務局専務理事事務局長 麴谷 和也

グリーン購入ネットワークは、1996年2月に設立され、消費者や組織購入者が商品選択時に品質や価格だけではなく、環境のことを考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先購入すること（グリーン購入）で、持続可能な社会実現に貢献することを目的に設立されたNPOです。

来年2月には、設立20周年を迎えますが、地域での浸透を図るべく全国9地域でネットワーク（北海道、宮城、埼玉、横浜、滋賀、京都、三重、大阪、九州）が設立され、地域にあった、顔の見える活動を展開しています。

グリーン購入ネットワーク（GPN）は、趣旨に賛同する全国の企業・行政・民間団体で構成されており、会員総数2,456（企業:2044、行政:191、民間団体:221（3月15日現在））となっています。また、グリーン購入の取組を世界に広めるため、2005年仙台においてグリーン購入世界会議を開催し、世界各国にグリーン購入を推進する組織の設立を呼び掛け、現在、11か国・地域でグリーン購入ネットワークが立ち上がっています。

日本は、その事務局（IGPN）を担い、各国における普及活動の支援を行っています。

具体的な活動は、グリーン購入の考え方を広く普及させるための研修会やセミナーの開催、展示会への出展、子供を対象とした環境学習の実施等に取組んでいます。

また、グリーン購入に取組むに当たり、どのような考え方で商品選択を行えばよいのかを示したグリーン購入ガイドラインの策定（19分野）や具体的な商品選択のための商品情報（約16,000商品）を「エコ商品ねっと」を通じて提供しています。

地球環境問題がますます深刻化しつつある中、企業におけるモノづくりや商品の環境配慮はもちろんのこと、社会の仕組みや個人の消費選択、使用・廃棄等、ありとあらゆる行動の環境シフトが求められています。

特に、日本においては2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、最も環境に配慮された大会として世界的にも評価されているロンドンオリンピックを上回る取組を行うことが宣言されています。グリーン購入ネットワークでは、2020年に開催されるオリンピックそのものの環境配慮はもちろんのこと、オリンピック開催を契機に、その後の社会の仕組みがいかに環境配慮された社会になっているかが重要と考えています。

グリーン購入ネットワークは、引き続きグリーン購入の普及・拡大を通じて、持続可能な社会実現を目指します。

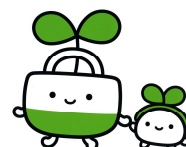
是非、皆様にもご参加いただき運動の環を広げていきたいと考えています。ご意見やお問い合わせは、下記アドレスにご連絡ください。

ホームページ <http://www.gpn.jp/>  
問合せ [gpn@gpn.jp](mailto:gpn@gpn.jp)



グリーン購入全国フォーラム

商品・サービス選択時の環境配慮（グリーン購入）

2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に、  
グリーン購入の普及・拡大で持続可能な社会を実現しよう！！

# 運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを  
info@kanpachiba.com にお知らせください。  
(広報部)

## 2月運営委員会

日時 2月24日(火) 18:00~20:00

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・環境講座 2014 報告
- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金事業  
「侵略的外来種って、なに？」(2/7)
- ・いちほら市民大学環境コース(1/29)

### 【協議】

- ・だより 102号
- ・環境学習活動
- ・エコメッセ総会 4/9
- ・総会 4/25 会場：飯沼本家(酒々井町)

## 3月運営委員会

日時 3月12日(木) 18:00~21:00

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・環境講座2014 報告書提出
- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金報告書提出
- ・平成27年度環境講座実施業務委託事業提案提出
- ・環境保全協議会市原市部会で当会活動等の講演

### 【協議】

- ・総会準備・総会議案
- ・その他

## お知らせ

### 第12回里山シンポジウム in 山武

テーマ：こどもにつながくらし方  
～里山と資源循環～

日時：5月17日(日) 10:00~17:15

会場：山武市立大富小学校

基調講演：スタジオジブリ 高畠 勲監督

資料代：500円

主催：里山シンポジウム実行委員会

<http://www.satochiba2.jp>

#### <プログラム>

- 9:45 開場
- 10:00 分科会
- 13:00 分科会報告
- 14:10 映画上映「木を植えた男」「クラック」
- 15:00 基調講演「F・バツクさんが伝えた  
かったこと」 高畠勲氏
- 15:40 鼎談 高畑氏、山武市長、稗田氏
- 16:30 ピアノコンサート 西村 由紀江氏
- 17:15 閉会

### 印旛沼流域圏交流会へのお誘い

印旛沼流域圏交流会

というのは、印旛沼(など)について情報交換するための、ゆるやかな集まりです。おもにメーリングリストやフェイスブックを使った情報交換と、年に数回は顔を合わせて交流会を開催します。印旛沼に関心を持っていらっしゃる方ならどなたでも入っていただけます。規約なし、会費なし、会長もなし、という本当にゆるやかなものですので、どうぞお気軽に参加してください。環境パートナーシップちばはこの会に参画しています。  
<http://wms.cr.chiba-u.jp/inbanuma/>

お申込み、お問い合わせは、  
inbameeting@freeml.com (事務局メール)  
または  
VYL11027@nifty.com (世話人メール)  
まで

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール: info@kanpachiba.com

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

### <環境パートナーシップちば>

#### 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)  
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		